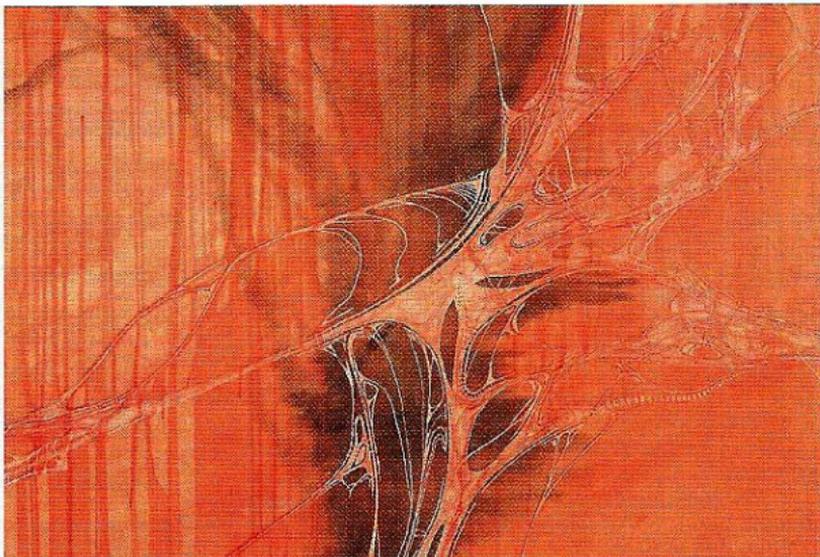




- 1980 大阪府生まれ
- 1998 文化学院芸術専門学校卒業
- 2005 個展 かねこ・あーと(東京)
- 2006 個展 かねこ・あーと(東京)
- Kaneko Art Tokyo Selection かねこ・あーと(東京)
- 2009 個展 かねこ・あーと(東京)

木村宗平 KIMURA, Sohei



C - 繊維 2009年 / 紙に胡粉、膠、骨、ポリウレタン / 各170x170 cm

常日頃、何かにつけてインターネットで検索してしまう。あの作家、何年生まれだっけ?あそこのギャラリー、いま何を展示してるんだっけ?ネット依存症のあまり、交通費や時間をかけて展覧会をまわる人も減っているのではないだろうか。

新しい才能を紹介する本展で、私は木村宗平というペインターを推薦した。彼をググっても、大した情報は出てこない。木村は、美大の卒展やコンペで発表し、ギャラリーがついたり次へ次へと高い欲求を持つことが多い近年の若手作家と異なる。今年29歳を迎える木村は、美大を出たわけでもなく自らコンペに応募することもなく、ただひたすらに自分の望む作品のために制作に専念してきた。こうしたがむしゃらな姿勢の作家は、本展のような推薦式の展覧会に推すことで、初めて人目に触れるのだ。

ネット社会におぼれている美術鑑賞者には、間違いなく「新しい」ものとして目に映るはずだ。しかし実際はどうだろう。作家のネームバリュー、モチーフ、テーマ、色、形、画材、すべて「新しい」と言えるだろうか?私は木村の作品を通して「新しい」という意味、パソコンの上から見るものと実物の作品の違いや感覚の問題を、改めて提言したい。

藤田千彩(アートライター)